

I 調査結果の概要

1 米

(1) 要 旨

平成25年産水陸稲の収穫量は、水稻が860万3,000 t、陸稲が4,290 t となり、水陸稲合計で860万7,000 t で、前年産に比べ8万4,000 t（1%）増加した。これは水稻の作付面積が前年産を1万8,000ha（1%）上回ったためである。

水稻の作柄は、全国平均で作況指数102、10 a 当たり収量は539kgとなった。これは、全もみ数が総じてやや多いないし平年並みとなり、登熟はウンカ等病害虫の影響等があった中国、四国及び九州を除きおおむね順調であったためである。

陸稲の作柄は、主産地の茨城県及び栃木県において、適度な降雨等おおむね天候に恵まれたことから、全国の10 a 当たり収量は249kg、10 a 当たり平均収量対比は104%となった。

平成25年産水稻の被害量は56万3,000 t、被害率は6.7%で、平年に比べて2.4ポイント下回り、前年産に比べては0.4ポイント上回った。（表1-1、図1-1）

図1-1 水稻の作付面積及び収穫量の推移（全国）

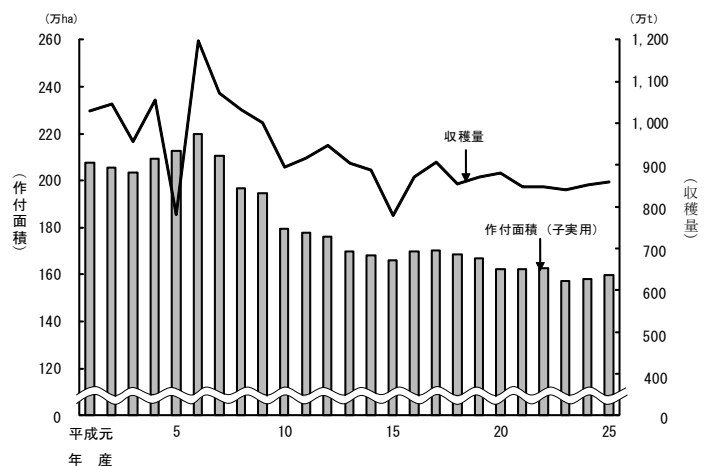


表1-1 平成25年産水陸稲の作付面積、10 a 当たり収量、収穫量及び被害量

全 国 農業地域	作付面積 (子実用)	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	作 況 指 数 (対平年比)	前 年 産 と の 比 較						参 考	
					作 付 面 積		10 a 当 たり 収 量	収 穫 量		主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	
					対 差	対 比	対 比	対 差	対 比			
	千ha	kg	千t		千ha	%	%	千t	%	千ha	千t	
水 陸 稲 計	1,599.0	—	8,607.0	—	18.0	101	nc	84.0	101	…	…	
水 稻	1,597.0	539	8,603.0	102	18.0	101	100	84.0	101	1,522.0	8,182.0	
北 海 道	112.0	562	629.4	105	0.0	100	98 △	11.2	98	107.0	601.3	
東 北 北	406.2	573	2,328.0	103	9.5	102	99	40.0	102	376.0	2,153.0	
北 陸	212.7	545	1,160.0	102	3.3	102	100	19.0	102	193.9	1,058.0	
関東・東山	298.9	547	1,635.0	102	3.4	101	101	32.0	102	287.2	1,571.0	
東 海	102.3	513	524.8	102	0.4	100	101	7.9	102	100.2	513.9	
近 畿	109.4	518	567.2	102	0.3	100	101	5.8	101	106.9	554.0	
中 国	115.2	510	587.6	99	0.5	100	97 △	13.8	98	112.9	575.6	
四 国	56.4	484	273.0	100	0.6	101	100	4.0	101	55.7	269.5	
九 州	183.5	488	895.7	97	0.2	100	100	0.0	100	180.9	882.9	
沖 縄	0.9	268	2.4	87 △	0.0	97	100 △	0.0	98	0.9	2.4	
陸 稲	1.7	249	4.3	104 △	0.4	82	145	0.7	118	…	…	

全 国 農業地域	被 害					
	被害面積	被 害 実面積	被害量	被 害 率		
				本 年	対平年差	対前年差
	千ha	千ha	千t	%	ポイント	ポイント
水 陸 稲 計	…	…	…	…	…	…
水 稻	3,067.0	1,335.0	563.0	6.7	△ 2.4	0.4
北 海 道	130.3	82.1	22.6	3.8	△ 6.3	1.3
東 北 北	627.1	347.4	146.3	6.4	△ 3.2	0.7
北 陸	311.2	164.2	30.5	2.7	△ 2.1	0.4
関東・東山	477.4	218.0	89.8	5.6	△ 2.7	△ 0.5
東 海	226.0	89.8	24.6	4.8	△ 1.8	△ 1.1
近 畿	230.2	96.5	33.0	5.9	△ 1.3	0.1
中 国	236.5	100.2	52.1	8.8	1.4	3.0
四 国	186.7	54.5	29.1	10.7	△ 0.3	△ 0.2
九 州	641.5	181.5	134.6	14.6	2.7	0.0
沖 縄	1.0	0.6	0.6	21.7	12.7	2.4
陸 稲	…	…	…	…	…	…

注：1

陸稲の作況指数欄は、原則として直近7か年のうちを除外した5か年の平均値（10a当たり平均収量）と

2

主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積需給調整の取組として取り扱う米穀等（備蓄米、加米等）の作付面積を除いた面積である。

3

被害面積は被害種類別の面積を合計したもので、を受けた場合は重複して計上してある（表1－3に

4

被害実面積は上記3のうち、重複部分を除いた面

5

被害率は（被害量÷平年収量）×100である（表において同じ。）。

6

被害率の対平年差は、昭和54年以降の異常値除外である（表1－3及び表1－4において同じ。）。

注：1 陸稲の作況指数欄は、原則として直近7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値（10 a 当たり平均収量）との対比である。
2 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、需給調整の取組として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた面積である。
3 被害面積は被害種類別の面積を合計したもので、2種類以上の被害を受けた場合は重複して計上してある（表1-3において同じ。）。
4 被害実面積は上記3のうち、重複部分を除いた面積である。
5 被害率は（被害量÷平年収量）×100である（表1-3及び表1-4において同じ。）。
6 被害率の対平年差は、昭和54年以降の異常値除外平均被害率との差である（表1-3及び表1-4において同じ。）。

(2) 解 説

ア 作付面積（子実用）

(ア) 水 稲

平成25年産水稻の作付面積（子実用）は159万7,000haで、前年産に比べて1万8,000ha増加した。

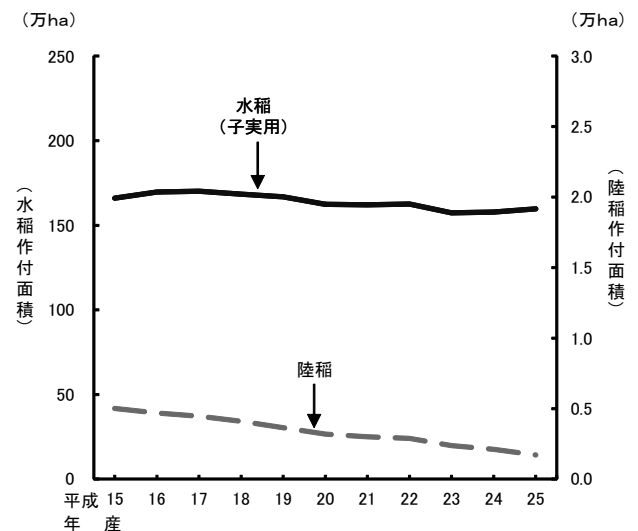
（表1－1、図1－2）

図1－2 水陸稲の作付面積の推移(全国)

(イ) 陸 稲

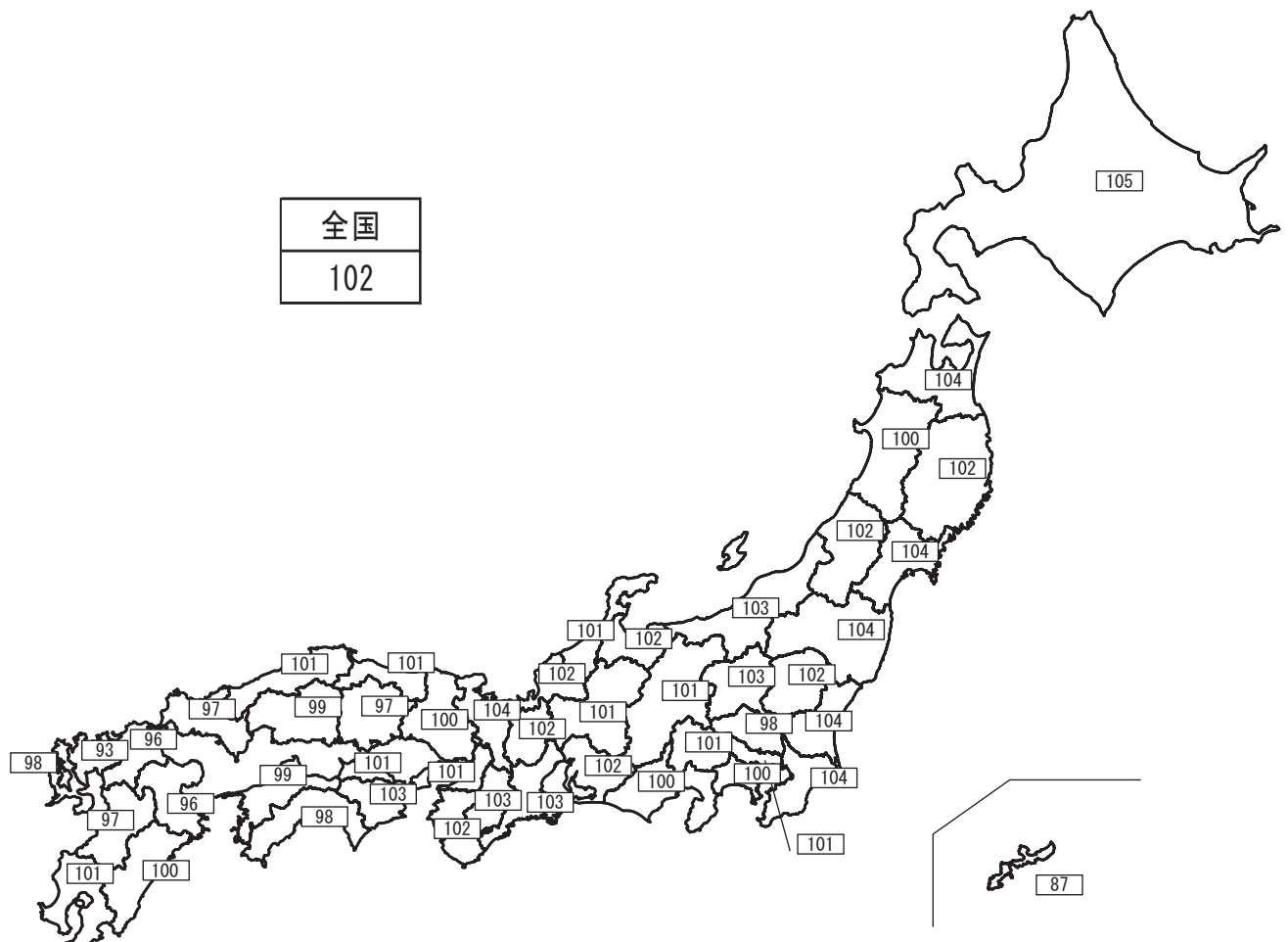
平成25年産陸稲の作付面積は1,720haで、前年産に比べて390ha（18%）減少した。

（表1－1、図1－2）



イ 作柄概況

図1－3 平成25年産水稻の都道府県別作況指数



注： 西南暖地の早期栽培等の地域（徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県）は早期栽培（第一期稲）、普通期栽培（第二期稲）を合算したものである。

(ア) 水 稲

a 北海道

田植期は平年に比べ3日遅くなったものの、出穂期は7月以降気温・日照時間が平年を上回って推移したため、平年に比べ4日早くなった。

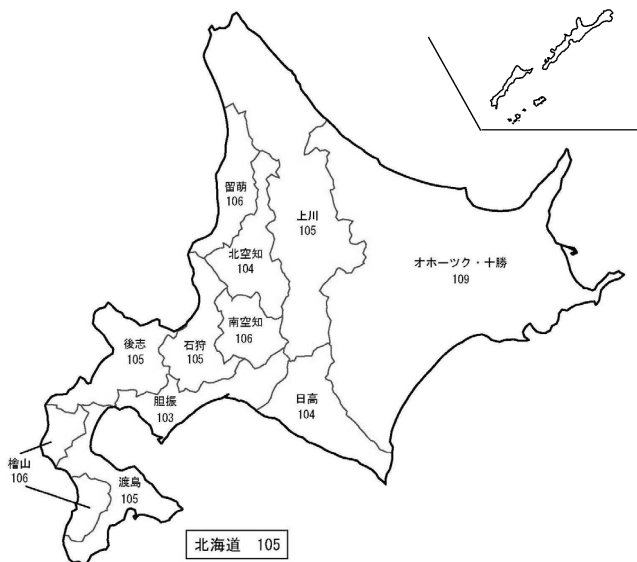
穂数は、田植期以降の天候が良好であったため、「平年並み」となったものの、1穂当たりもみ数が「やや少ない」となり、全もみ数は「やや少ない」となった。

登熟は、7月以降気温・日照時間がおおむね平年を上回って推移したことから、平年に比べ「良」となった。

作柄は、主産地の上川、北空知及び南空知の10a当たり収量はそれぞれ581kg（作況指数105）、581kg（同104）、558kg（同106）となり、北海道全体の10a当たり収量は562kg（同105）となった。

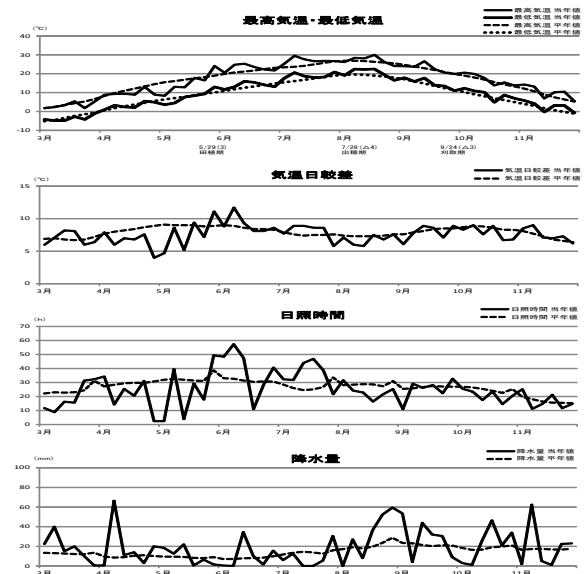
（図1-4、1-5）

図1-4 平成25年産水稻の作柄表示地帯別作況指数（北海道）



注：□内の数値は道平均の作況指数である。

図1-5 平成25年産稲作期間の半月別気象経過（札幌）



資料：気象庁『アメダスデータ』を農林水産省大臣官房統計部において組み替えた結果による（以下各図において同じ。）。

注：耕種期日はそれぞれ最盛期である。（ ）内の数値は平年と比較し、その遅速を日数で表しているものであり、△は平年より早いことを示す（以下各図において同じ。）。

b 東北

田植期は平年に比べ2日ないし3日遅くなった県があったものの、出穂期は6月下旬以降気温・日照時間がおおむね平年を上回って推移したことから、平年並みないし2日程度早くなった県があった。

穂数は、福島県で平年に比べ「やや多い」となったほかは、各県で「平年並み」ないし「やや少ない」となった。

1穂当たりもみ数は、すべての県で「やや多い」となった。以上のことから、全もみ数は降雨等の影響で穂数の減少が大きかった秋田県で平年に比べ「やや少ない」となったほかは、各県で「やや多い」ないし「平年並み」となった。

登熟は、出穂期以降、気温・日照時間がおおむね平年を上回って推移したため、各県で「やや良」ないし「平年並み」となった。

このため、10 a 当たり収量は、青森県610kg（作況指数104）、岩手県542kg（同102）、宮城県552kg（同104）、秋田県572kg（同100）、山形県608kg（同102）、福島県561kg（同104）となり、東北平均で573kg（同103）となった。（図1－6、1－7）

図1－6 平成25年産水稻の作柄表示地帯別作況指数（東北）

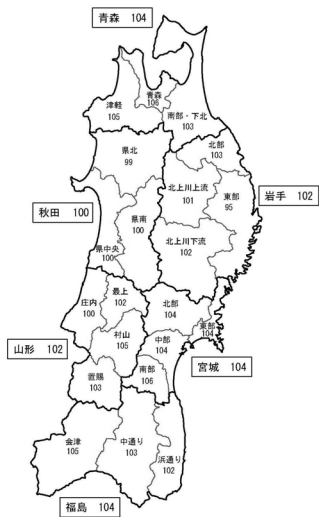
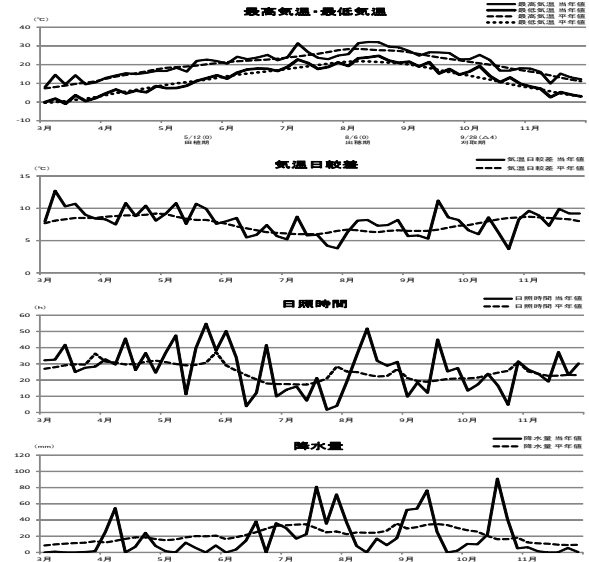


図1－7 平成25年産稲作期間の半旬別気象経過（仙台）



c 北 陸

田植期は福井県で遅植えの普及により平年に比べ3日遅くなったほかは、各県で平年並みとなり、出穂期は7月以降気温・日照時間がおおむね平年を上回ったため、新潟県で2日早く、富山県及び石川県で5日ないし4日早くなったほか、福井県で平年並みとなった。

穂数は、各県で「平年並み」となった。

1穂当たりもみ数は、新潟県で「やや多い」となったほか、各県で「平年並み」となった。以上のことから、全もみ数は各県で「やや多い」ないし「平年並み」となった。

登熟は、出穂期以降、気温・日照時間がおおむね平年を上回って推移したため、各県で平年に比べ「やや良」ないし「平年並み」となった。

このため、10 a 当たり収量は、新潟県555kg（作況指数103）、富山県546kg（同102）、石川県522kg（同101）、福井県526kg（同102）となり、北陸平均で545kg（同102）となった。

（図1－8、1－9）

図1－8 平成25年産水稻の作柄表示地帯別作況指数（北陸）

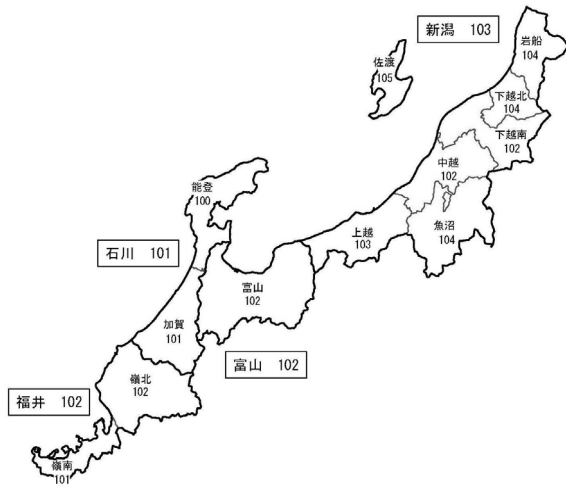
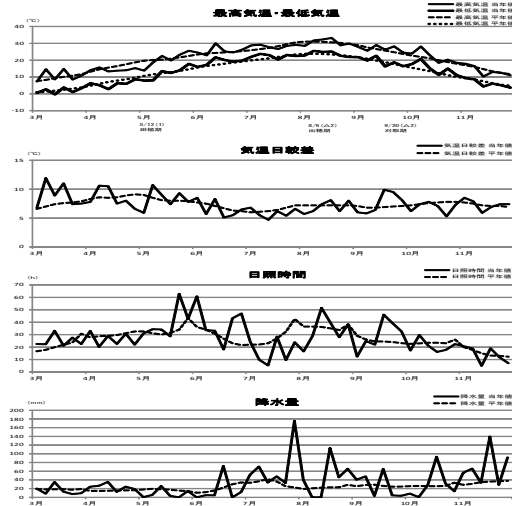


図1－9 平成25年産稲作期間の半旬別気象経過（新潟）



d 関東・東山

田植期は各県でおおむね平年並みとなり、出穂期は7月以降気温がおおむね平年を上回ったため、各都県で平年に比べ2日から4日早くなった。

穂数は、栃木県で平年に比べ「やや少ない」となったほかは、各都県で「やや多い」ないし「平年並み」となった。

1穂当たりもみ数は、各都県で「やや多い」ないし「平年並み」となった。以上のことから、全もみ数は各都県で「やや多い」ないし「平年並み」となった。

登熟は、埼玉県、東京都及び神奈川県で病害虫の発生等により「やや不良」となったほかは、各県で登熟期間がおおむね天候に恵まれたため、平年に比べ「やや良」ないし「平年並み」となった。

このため、10a当たり収量は、茨城県542kg（作況指数104）、栃木県549kg（同102）、群馬県509kg（同103）、埼玉県481kg（同98）、千葉県554kg（同104）、東京都415kg（同101）、神奈川県495kg（同100）、山梨県551kg（同101）、長野県632kg（同101）となり、関東・東山平均で547kg（同102）となった。（図1-10、1-11）

図1-10 平成25年産水稻の作柄表示地帯別作況指数（関東・東山）

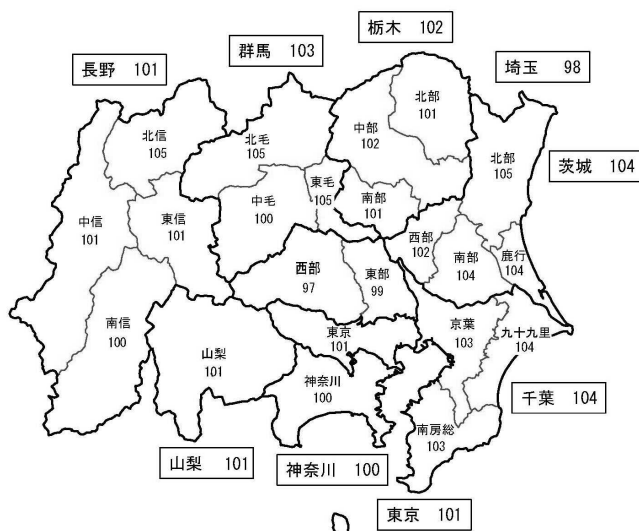
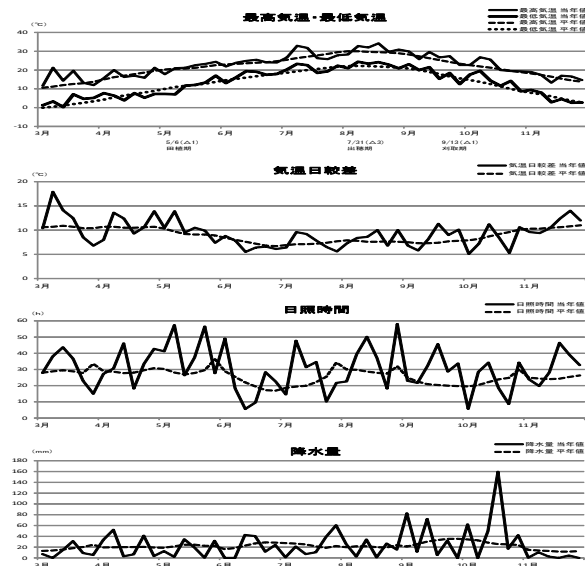


図1-11 平成25年産稲作期間の半月別気象経過（水戸）



e 東海及び近畿

田植期は静岡県が平年に比べ2日早くなったほかは、各府県で平年並みないし2日遅いとなり、出穂期は7月中旬以降気温・日照時間が平年を上回って推移したため、各府県で平年に比べ1日ないし4日程度早くなった。

穂数は、静岡県で6月の日照不足で平年に比べ「やや少ない」となったほかは、各府県で田植期以降おおむね天候に恵まれたことから「やや多い」ないし「平年並み」となった。

1穂当たりもみ数は、愛知県及び奈良県で平年に比べ「やや少ない」となったほか、各府県で「やや多い」ないし「平年並み」となった。以上のことから、全もみ数は、各府県で「やや多い」ないし「平年並み」となった。

登熟は、大阪府、兵庫県及び和歌山県で「やや不良」となったほか、各府県で出穂期以降おおむね天候に恵まれたことから平年に比べ「やや良」ないし「平年並み」となった。

このため、10 a 当たり収量は、岐阜県495kg（作況指数101）、静岡県521kg（同100）、愛知県519kg（同102）、三重県517kg（同103）、滋賀県529kg（同102）、京都府530kg（同104）、大阪府502kg（同101）、兵庫県506kg（同100）、奈良県527kg（同103）、和歌山県506kg（同102）となり、東海平均で513kg（同102）、近畿平均で518kg（同102）となった。（図1-12、1-13）

図1-12 平成25年産水稻の作柄表示地帯別作況指数（東海及び近畿）

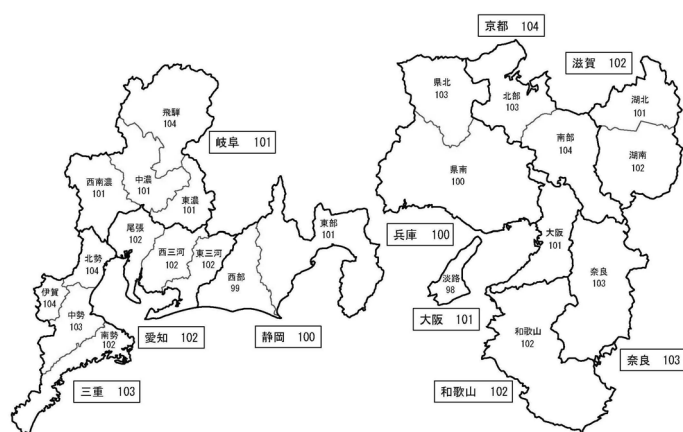
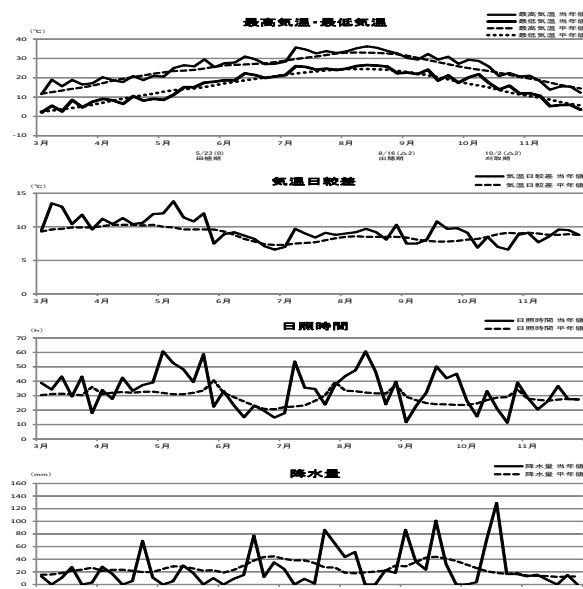


図1-13 平成25年産稲作期間の半旬別気象経過（名古屋）



f 中国及び四国

田植期は平年並みないし2日遅くなり、出穂期は各県で7月中旬以降の気温・日照時間が平年を上回って推移したため、平年に比べ1日ないし5日早くなった。

穂数は、徳島県（早期栽培）及び高知県（早期栽培）で「少ない」となったほかは、各県で田植え期以降おおむね天候に恵まれたため「やや多い」ないし「平年並み」となった。

1穂当たりもみ数は、山口県で「平年並み」となったほか、各県で「多い」ないし「やや多い」となった。以上のことから、全もみ数は徳島県（早期栽培）及び高知県（早期栽培）で「やや少ない」ないし「少ない」となったほか、各県で「やや多い」ないし「平年並み」となった。

登熟は、徳島県（早期栽培）及び高知県（早期栽培）で「やや良」となったほかは、各県でウンカ等の病虫害の被害や登熟期間の高温の影響等で「やや不良」ないし「不良」となった。

このため、10 a 当たり収量は、鳥取県519kg（作況指数101）、島根県514kg（同101）、岡山県512kg（同97）、広島県520kg（同99）、山口県487kg（同97）、徳島県487kg（同103）、香川県503kg（同101）、愛媛県493kg（同99）、高知県449kg（同98）となり、中国平均で510kg（同99）、四国平均で484kg（同100）となった。（図1-14、1-15）

図 1-14 平成25年産水稻の作柄表示地帯別作況
指数（中国及び四国）

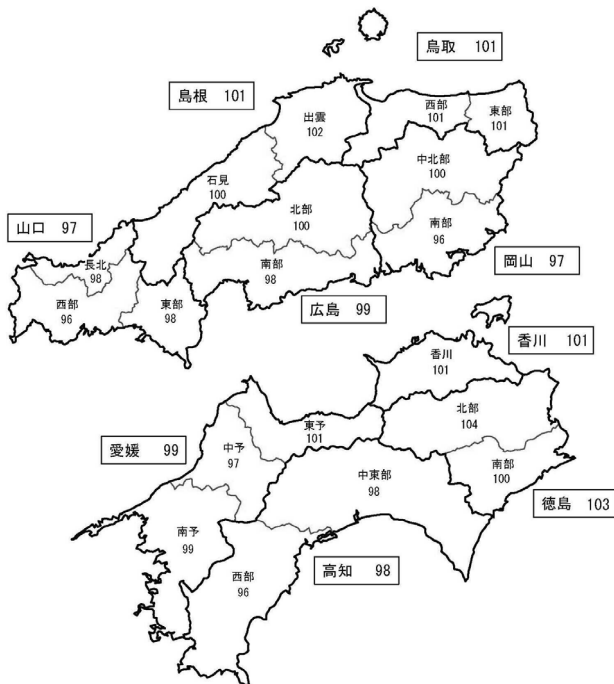
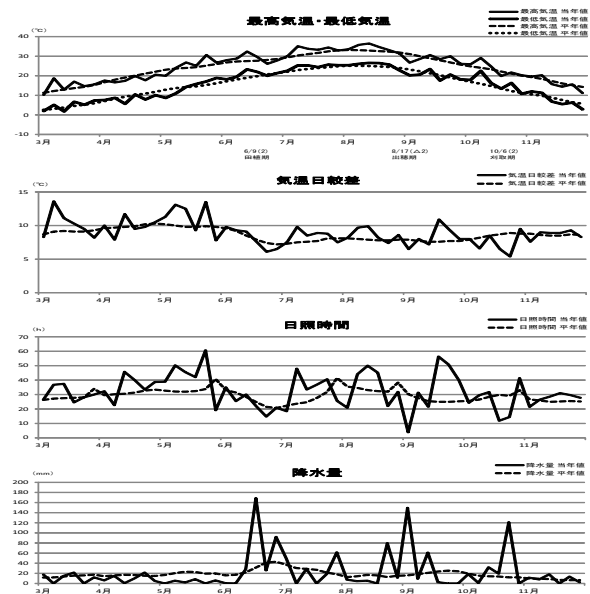


図 1-15 平成25年産稲作期間の半旬別気象経過
（岡山）



g 九州及び沖縄

九州においては、田植期は平年並みないし2日早くなり、出穂期は各県で1日ないし4日早くなった。

穂数は、鹿児島県（早期栽培）で平年に比べ「少ない」となり、佐賀県、長崎県及び宮崎県（早期栽培）でも「やや少ない」となったほかは、各県で「やや多い」ないし「平年並み」となった。

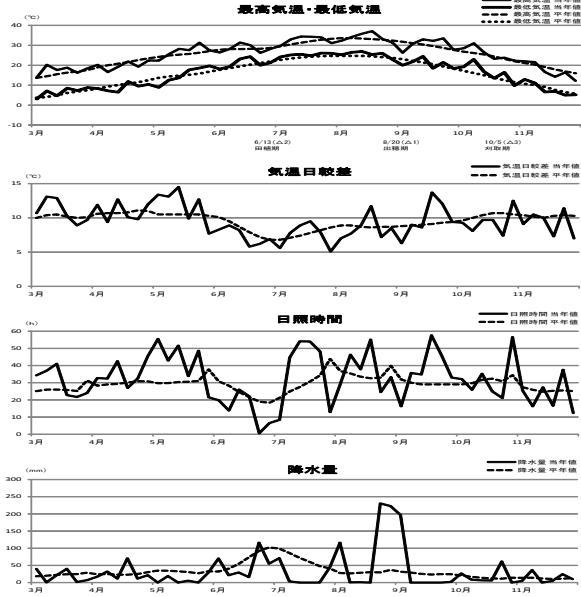
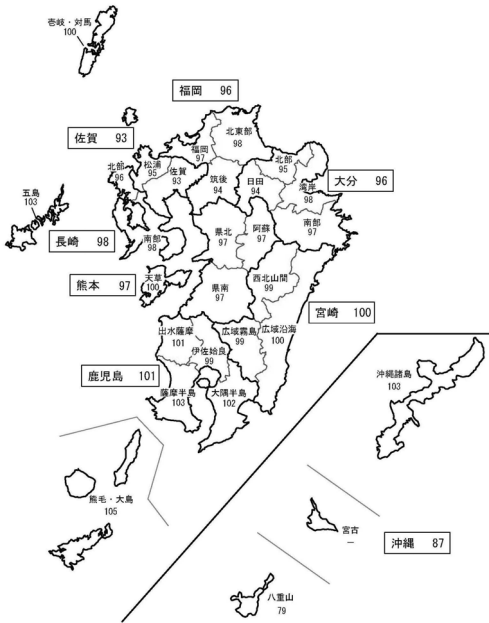
1穂当たりもみ数は、穂数の少なかった宮崎県（早期栽培）及び鹿児島県（早期栽培）で「多い」ないし「やや多い」となったほか、各県で「やや多い」ないし「平年並み」となった。以上のことから、全もみ数は宮崎県（早期栽培）及び鹿児島県（早期栽培）で「やや少ない」となったほか、各県で総じて「平年並み」となった。

登熟は、宮崎県（早期栽培）及び鹿児島県で「良」ないし「平年並み」となったほかは、各県でウンカ等の病虫害の被害や登熟期間の高温の影響等で「やや不良」ないし「不良」となった。

このため、10a当たり収量は、福岡県479kg（作況指数96）、佐賀県489kg（同93）、長崎県468kg（同98）、熊本県502kg（同97）、大分県484kg（同96）、宮崎県495kg（同100）、鹿児島県489kg（同101）となり、九州平均で488kg（同97）となった。

沖縄県は、第一期稲の作柄が、田植期以降の日照不足・低温等の影響で作況指数90となったことに加えて、第二期稲で台風第23号の影響等により作況指数76となったことから、県計の10a当たり収量は268kg（同87）となった。（図1-16、1-17）

図 1-16 平成25年産水稻の作柄表示地帯別作況 図 1-17 平成25年産稲作期間の半月別気象経過
指数（九州及び沖縄） （熊本）



(イ) 陸 稲（主産地域）

主産地の茨城県及び栃木県において、適度な降雨等おおむね天候に恵まれたことから、10 a 当たり平均収量対比は茨城県が102%、栃木県が116%であった。

（表 1-2）

表 1-2 平成25年産陸稲の作付面積、10 a 当たり収量及び収穫量

区 分	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考) 10 a 当 たり 平 均 収 量 対 比
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収 量	収 穫 量			
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比		
全 国	千 ha	kg	千 t	千 ha	%	%	千 t	%	%	
	1.7	249	4.3	△ 0.4	82	145	0.7	118	104	
う ち 茨 城	1.2	250	3.0	△ 0.2	86	151	0.7	129	102	
栃 木	0.4	274	1.1	△ 0.1	76	143	0.1	109	116	

注： 「(参考) 10 a 当たり平均収量対比」とは、10 a 当たり平均収量（原則として直近 7 か年のうち、最高及び最低を除いた 5 か年の平均値）に対する当年産の 10 a 当たり収量の比率である。

ウ 水稻の被害の概要

全国の被害量は56万3,000 t、被害率は6.7%で、平年に比べて2.4ポイント下回った。

被害種類別にみると、気象被害の被害率は3.5%で、平年を2.2ポイント下回った。このうち、風水害の被害率は1.2%で平年を0.6ポイント下回り、冷害の被害率は0.2%で平年を1.8ポイント下回った。

病害の被害率は1.8%で、平年を0.7ポイント下回った。このうち、いもち病の被害率は0.9%で平年を0.6ポイント下回り、紋枯病の被害率は0.5%で平年を0.1ポイント下回った。

虫害の被害率は1.1%で、平年を0.4ポイント上回った。このうち、ニカメイチュウの被害率は0.1%で平年並み、ウンカの被害率は0.6%で平年を0.3ポイント上回った。

(表1-3、1-4、図1-18)

表 1 - 3 平成25年産水稻の被害

被害種類	被害面積	被害量	被害率		
			本年	対平年差	対前年差
	ha	t	%	ポイント	ポイント
総数	3,067,000	563,000	6.7	△ 2.4	0.4
気象被害	1,530,000	297,800	3.5	△ 2.2	△ 0.4
風水害	404,800	101,400	1.2	△ 0.6	0.5
干害	15,400	7,240	0.1	0.0	0.0
冷害	86,000	20,100	0.2	△ 1.8	0.0
日照不足	421,600	92,400	1.1	nc	△ 0.7
高温障害	475,300	51,800	0.6	nc	0.1
その他の	127,200	24,900	0.3	nc	△ 0.4
病害	784,500	150,300	1.8	△ 0.7	0.3
いもち病	284,000	72,400	0.9	△ 0.6	0.2
紋枯病	251,600	39,600	0.5	△ 0.1	0.1
その他の	248,900	38,300	0.5	0.1	0.1
虫害	632,700	91,600	1.1	0.4	0.5
ニカメイチュウ	64,200	6,390	0.1	0.0	0.0
ウンカ	152,300	55,000	0.6	0.3	0.4
カメムシ	105,200	10,100	0.1	nc	0.0
その他の	311,000	20,100	0.2	nc	0.0

注： 気象被害のうち「日照不足」、「高温障害」及び「その他」並びに虫害のうち「カメムシ」及び「その他」については、平成14年産から気象被害及び虫害について表章区分の見直しを行ったことから、平年差の比較をしていない。

表 1－4 平成25年産水稻の被害種類別被害率及び対平年差（全国農業地域別）

全国農業地域・区分		総 数	気 象 被 害					病 害			虫 害			
			風水害	冷 害	日照不足	高温障害		いもち病	紋枯病		ニカメイチュウ	ウンカ	カメムシ	
全 国	被 害 率 (%)	6.7	3.5	1.2	0.2	1.1	0.6	1.8	0.9	0.5	1.1	0.1	0.6	0.1
	対 平 年 差	△ 2.4	△ 2.2	△ 0.6	△ 1.8	nc	nc	△ 0.7	△ 0.6	△ 0.1	0.4	0.0	△ 0.3	nc
北 海 道	被 害 率 (%)	3.8	3.4	0.1	3.1	-	-	0.3	0.1	-	0.1	-	0.0	0.0
	対 平 年 差	△ 6.3	△ 5.6	△ 0.5	△ 4.1	nc	nc	△ 0.6	△ 0.1	0.0	△ 0.1	0.0	△ 0.1	nc
東 北	被 害 率 (%)	6.4	4.6	1.0	0.0	2.8	0.0	1.5	1.2	0.2	0.2	0.0	0.0	0.1
	対 平 年 差	△ 3.2	△ 2.7	△ 0.2	△ 3.5	nc	nc	△ 0.5	△ 0.4	△ 0.1	0.0	0.0	0.0	nc
北 陸	被 害 率 (%)	2.7	2.0	1.8	-	-	0.2	0.3	0.1	0.2	0.2	0.1	0.0	0.0
	対 平 年 差	△ 2.1	△ 1.5	0.1	△ 0.3	nc	nc	△ 0.7	△ 0.5	△ 0.1	△ 0.1	0.0	△ 0.1	nc
関 東 ・ 東 山	被 害 率 (%)	5.6	2.7	1.2	0.1	0.4	0.8	2.1	0.4	0.6	0.7	0.2	0.2	0.1
	対 平 年 差	△ 2.7	△ 1.9	△ 0.7	△ 0.9	nc	nc	△ 0.9	△ 1.1	△ 0.4	0.1	0.1	0.0	nc
東 海	被 害 率 (%)	4.8	1.7	0.5	-	0.1	0.9	1.4	0.6	0.4	0.9	0.2	0.2	0.3
	対 平 年 差	△ 1.8	△ 0.9	△ 0.8	△ 0.2	nc	nc	△ 1.4	△ 1.1	△ 0.2	△ 0.1	0.0	△ 0.1	nc
近 畿	被 害 率 (%)	5.9	2.2	1.1	-	0.0	0.9	2.1	1.1	0.6	1.2	0.2	0.7	0.1
	対 平 年 差	△ 1.3	△ 0.2	△ 0.4	0.0	nc	nc	△ 1.2	△ 0.8	△ 0.2	△ 0.1	0.0	0.0	nc
中 国	被 害 率 (%)	8.8	3.9	1.7	-	1.0	1.0	2.3	1.3	0.5	2.0	0.1	1.5	0.2
	対 平 年 差	1.4	0.2	△ 0.1	△ 0.1	nc	nc	△ 0.1	0.0	△ 0.1	0.9	0.0	0.9	nc
四 国	被 害 率 (%)	10.7	5.2	1.2	-	0.9	1.8	2.9	1.1	1.0	2.0	0.1	0.9	0.2
	対 平 年 差	△ 0.3	0.5	△ 2.0	0.0	nc	nc	△ 1.5	△ 1.0	△ 0.4	0.3	△ 0.2	0.0	nc
九 州	被 害 率 (%)	14.6	5.2	1.7	-	1.3	1.8	4.1	1.8	1.1	4.8	-	3.9	0.2
	対 平 年 差	2.7	△ 0.9	△ 1.2	△ 0.3	nc	nc	0.3	0.1	0.0	3.1	0.0	3.1	nc
沖 縄	被 害 率 (%)	21.7	21.0	6.4	-	8.1	-	-	-	-	0.4	0.4	-	0.0
	対 平 年 差	12.7	13.5	0.8	-	nc	nc	△ 0.7	△ 0.7	0.0	△ 0.3	0.4	△ 0.2	nc

図 1－18 平成25年産水稻の都道府県別被害率（総数）

